

【 要 旨 】

第 1 部 “新型” 中部地域の基本方向 — 中部 WAY の進化

1. 中部経済の方向感を見定める

- 自動車産業の一本足打法から多元型へと転換を図る
- 輸出先に占める新成長市場の割合を高める
- 空洞化を回避する
- イノベーションを活性化する
- 地球環境保全、世界人口高齢化、大交流などの世界のトレンドをチャンスにする
- ものづくりを中心とする地域経済運営「中部 WAY」を進化させる
- ものづくりを絶えず革新し、サービスを創造する
- 中部企業の優れた DNA を継承し異種交配を進める
- すなわち、優れた現場力に経営革新のダイナミズムを交配する
- 以上の方向性の中で、メガコンペティションに対応する新しい勝ちパターンを作る

2. 新しい産業構造を 3 つの観点で構想する

■ 産業構成の観点

- 世界経済の変化及び中部地域のポテンシャルを踏まえ、従来型の自動車に次ぐ第 2、第 3 の柱となる産業を次の通り選り出す
 - 次世代自動車産業
 - 航空宇宙産業
 - 低炭素・資源リサイクル産業
 - 長寿ヘルスケア産業
 - 観光産業
- これらの産業で雇用し、食っていく

■ 企業行動の観点

- 加工組立型企業の国際的優位性が相対的に低下する恐れ
- これまでの中部の企業の強みが国内的にも国際的にも通用しなくなる恐れ
- 完成品の組立よりキーパーツや素材を供給する企業が高収益を上げる可能性
- 企業行動をダイナミックに革新する必要がある
 - グローバル化に挑む
 - 低炭素、健康長寿、観光などの社会ニーズに指向性を合わせる
 - ビジネスモデルの革新

■ つながり力の観点

- 企業間の結合関係を垂直ピラミッド型から水平ネットワーク型へ
- 多様な産業連関の形成
- 産学官の連携
- 地域間の連携協調。自治体の連携

第 2 部 産業構造ビジョンのデザイン — 中部産業首都圏の形成

1. 産業構成をシフトアップする — 5 つの次世代リーディング産業の創造

- 従来型自動車一本足打法から複数のリーディング産業による多元型産業構成を目指す
- 次世代自動車産業を構築する
 - ハイブリッド車、プラグイン・ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車など環境適合車製造、基幹部品や装置、基礎素材の供給、アクセサリ供給、次世代自動車の点検整備、充電スタンドなど走行環境基盤、リサイクル産業などから構成
- 航空宇宙産業を構築する
 - 中小型のジェット機の完成機製造、大型機の装置供給・部位組立、装置のパーツ・複合素材・技術の提供、航空機の MRO、航空関係の教育・訓練、人工衛星の打ち上げビジネスなどで構成
- 低炭素・資源リサイクル産業を構築する
 - エコ製品製造・スマートグリッド等エコ社会システムを形づくる材料・装置等の製造、生産プロセスにおける低炭素技術の海外販売、伝統産業のエコ製品の開発、既存事業の環境適合化、従来型環境問題のソリューションの輸出などで構成
- 長寿ヘルスケア産業を構築する
 - 医療・介護・美容などのヘルスケア関連機器製造、そのパーツや素材の製造、医薬品・健康食品の製造、健康食材（農産物・海産物）の生産、ヘルスケアサービス産業、ヘルスケア情報システム統合サービスなどで構成
- 観光産業を構築する
 - 文化遺産や景観など観光資源を保全・開発する産業、イベント・コンベンションなど観光機会を開発する産業、テーマパークやアミューズメント施設など観光スポット産業、交通・旅客・観光情報など観光コンビニエンスに関する産業、ホテル・旅館などホスピタリティを提供する産業、外国人観光客の誘致などで構成

2. 企業行動をバージョンアップする — 果敢なイノベーションの推進

- ダイナミックなイノベーションの多角的推進
 - 自社のミッションの再定義・革新、グローバルな視野の革新、技術のオープンイノベーション、商品・サービスのコンセプトの革新、知的財産戦略の革新、ブランド価値の創造、人材起用・ガバナンス・アライアンスの革新
- ビジネスモデルの新規開発
 - 技術で勝ってビジネスでも勝つ、収益を上げる仕組みの革新、企業参謀の育成
- 世界のエマージング市場への進出
 - 世界の間所得層に注目したボリュームゾーンへ進出、現地マーケットニーズに合わせた商品作りの推進、インフラの輸出
- 低炭素市場への新展開
 - 低炭素ニーズに指向性を高めたビジネス、省エネ・省資源型の生産技術体系をパッケージ商品化して輸出
- 健康長寿市場の積極創造
 - 長寿社会のニーズを先取りした積極提案型の商品・サービスの開発、輸出
- 中小企業の眠れる実力の呼び覚まし
 - BtoB から BtoC への展開、海外への積極輸出、外部経営資源の活用

3. つながり力をパワーアップする — 産学官の縦横で多様な連携

- 新しい企業間関係
 - 閉じた垂直ピラミッド型企業間関係からの脱却、複数のオープンなピラミッドへの参画、自らがピラミッドの頂点に立つ、水平ネットワークの形成
- 産業間の連携
 - 医工連携、観光サービスとものづくりの連携、農商工連携
- 産学官の連携
 - コーディネーターの育成、研究者のキャリアパスの複線化
- 地域間の連携
 - 自治体間の広域連携、協調プロジェクトの発掘、広域協調のための $\alpha\%$

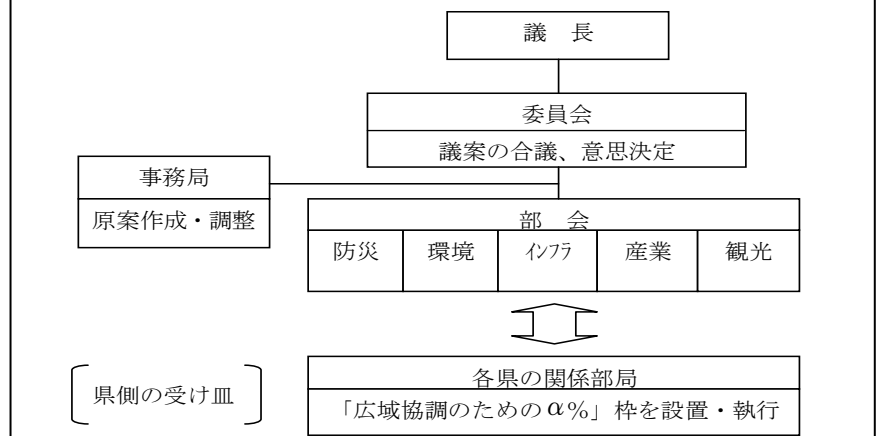
第 3 部 実現化方策の提起 — 目的の共有

1. 基礎的条件を整える

- 人材の育成、獲得
 - 【提言 1：グローバル人材の獲得に向けた奨学制度】
 - 中部地域の大学で学びたいとする海外学生に対し奨学制度の創設（留学前から留学後に至るまでを全面的に支援）
 - 【提言 2：中部地域の大学と海外の大学の学生交流プログラム】
 - 外国語教育の徹底、単位取得を相互に認め合う協定の推進、海外留学の推奨、国際感覚ある人材の育成など
- ソフトな共通インフラの整備
 - 【提言 3：中小企業の事業支援プラットフォームの設立】
 - 国際ビジネス展開を支援する情報センターの整備など
 - 【提言 4：生活ニーズと技術シーズのマッチング機会の創設】
 - 消費者ニーズを発見する機会となるイベントの開催など
 - 【提言 5：中枢管理機能の育成、誘致】
 - 本社機能を中部地域に設置した企業に対する税の優遇
 - 産業に関する国際的なイベントの創設、定期的な開催など
- ハードな共通インフラの整備
 - 中部国際空港 2 本目滑走路、リニア中央新幹線の整備推進
 - 名古屋港、四日市港、三河港、清水港などの港湾機能強化
 - 東海環状自動車道西回り、中部縦貫自動車道、三遠南信自動車道などの早期整備など
- 国に期待するもの
 - FTA や EPA の締結の推進

2. 推進体制・環境をつくる

- 【提言 6：中部経済協力開発機構の創設】
 - 構想の推進主体として、中部版 OECD とも言うべき「中部経済協力開発機構」（仮称）を設立



3. シナリオを描く

- 【至近年：環境整備に関して政府の支援に期待する段階】
 - 総合特区制度において中部地域のいくつかの提案が採択される
 - 大都市圏制度で中部地域が「成長のエンジン」に位置付けられる
- 【概ね 2015 年まで：自助努力を推進する段階】
 - 中部経済協力開発機構がボランタリーに結成される
 - いくつかの具体的プロジェクトが案件形成され、立ち上がる
- 【概ね 2020 年まで：努力の成果を収穫する段階】
 - プロジェクトのいくつかが成就し効果を発揮する
 - 5 つのリーディング産業が確固たる産業として認知される
 - 国際的な中枢管理機関が中部地域に誘致され業務を開始する